繪日記

上

釈迦如来御かい地上五

釈迦如来御かい地上五

釈迦如来御かい地上五

うつるを法ゝ[illegible]ゝ毎日[illegible]を法ひて[illegible]虎のうへと
あつれうて命を捨法ゝ[illegible]せうせんの[illegible]と云菩薩と
生れて[illegible]法を世界[illegible]
法をあげ法ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]奉ゝ云[illegible]
うしゝなり殺りて法ゝ[illegible]
[illegible]を法ひて[illegible]
云ゝを奥ゝ志ゝ[illegible]
ぎゝ[illegible]
と云ゝ[illegible]
てゝ[illegible]
りんせんとの法ゝ[illegible]
とゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぜんやうめつりつ。ちやうめつ
書付く。鷲の巻へぞるげ。ぞ。ぼ。ぼ。ごうま。とこ
ろひてけよちよぎやうハ。書。高ノ。ちやうめつ。ぼつ。なり。
まれてハめつりめつりてハ。とるとぐ。家。滅。をりつく
樂とせり。今。祝。ひ。文。とき。くゆ。をけうり。者の世の
元生。ためよとて。ひ。ん。ちやうせ。とい。山。石。よ。し。文
を書付く。猪。狐。蟲。書。ぼ。ぼ。なぐ。ん。雨。ん。あ。れ。是
生。滅。法。ぼ。ん。ぐ。む。除。苦。怪。なま。とな。く。く。加。者。
付。ろ。ひ。て。ん。ん。ぬ。尼。神。の。あ。れ。言。へ。ぞ。ぐ。ろ。な。ひ

海を渡り月海へだびでまやうせきぶあをへざてく
きくなるもしれ者もうもうくに尼神の石海面へハ
西くあるぶびそくハ弓へ赤身乃流生れ其ためよ
うんけの又母身をうて海さ石庭りあ海尼神
乃口よ花へ海ふさ弓ぶびを八茅乃蓮花よ海元
なりぶけるハ見ハ海くしれきざんよのぶ。中地びる
弓やかれのをうん也ぶびじの仏法みんぶー。まーま
れを月なんがためよるやうよ尼神乃ことくしけ
んぶーさり心ざーやるみまーくり抑結約五
書ーと云ハ則つるぶの山とうあ海りうふ車
也也弓やうめるりと云ハくくのを海る法乃和也。
弓やうめるりぬとりよハむぶやうがびりの乃智
重のてーと祥滅ぬらくと云ハ別浄土り寿る寅

れのり和也者ふれ乳やうむの弓如乃理をさとりて。
はむーいむーの実相を弓やれ海ば四白乃中月八
万四ふれ仏法をおさめうん弓三度乳ー
なりて月く海びぶさてうみぶびハ八業乃蓮花月
庭ー海ひてがんを鍋ー海ひくいるく尼神八業
れ蓮花ぶやうん一ぶい釈也とるへ行ひーも法
れいみーさのくにあるーびと伝ふ乃うるさをりつく。
やるやん者ふ西身の釈也とぶんーあるれ海ー山也。
○弓也くんうるれくれ月ふ乃大国の中天竺
月うひーくやう国とーー国あるー国父百六わくに
さぶ海也るーのふれ月ようとぶ浄飯王とーーて。
くーくよりこれるさハ万四千二百十代のようは
弓けうまとやーふのまれ乃ふ四人まりまハ一月

い浄飯王二ゐんくゎん王三ゐびゃくゎん王四番
をはゞん後ゐんゐうこうてようまひ中ゐたうえん
こうゐんゐうはちやうぢさこやちうゐんさてめで
たくまひ海を大日如来けちんを浄命のちく
ゐんゐうはだろく天れ海ようれくんまてまひ。
三命のひゃくゐんゐうはこ三世乃統れのうゐなり。
四命のうん後ゐん王八一切衆生れめいちくくんのようを
統ろには浄飯王八ぼくゐ五年ゐ及だを後ふまぐ男
女よ海ゐく一人の今こ海一まきびかまこれを
ゐ一を後ひて或日れつまくくよ天竺よいひ今ゆ
あいこうとり相人をめてせんて海くうは教ゐちま
世をつぎ後べき今こみうを後べき乃やまり
そうくなひ系くせまし後生きまけまだ相人ぼん

と兼ねうてぼ年れさうん書とこくくひきぼてうり
さびまうよ。更よ今こみうを後べき后一人まり
まきびとり大王宮にしてたきに類うを後よ五人。
お人ぼやうぼまこ義よ長者一人まりまんゐをば
ぼんうく長ゐとりぼゐ乃ゐれまを後百二十里う
乃ゐのぼゐゐびとつきを金乃門と立真間ゐ又百
乃ゐをえまおまてぼ人てつぼ間よまむ人ハゐれ。
りかにてきを後ひてぐくりゐうり門の國乃
太民とあんとん世。後の長者ゐ根二人まりまん
何ゐ世系とび慶耶ま人ぼりうこ世ゐとびけう
きんこわてぼのまやぶ人とむ人まりてぼ形ゐ
ぼきを後つぼ真間てこに世をつぎ後べきぼきうど
まりまりゐ人きこうこなひぼ大まきこうめ

ておそれ恐ひて屋ぐくむ人うらぶれて。一ぬれ衣
無いとは弁ぜず。二世の契浅からじ。あがりの名程
なり。或時慶耶まん夫婦の人。釋迦如来の人ぶれ。くしにやど
はまらひめん有りれば。釋迦のことつくり。寿元生とさいごと
ぶらひて。仏法のことつくり。寿元生とさいごと
ぶらんまんぷりんぐくれ用捨とかくしぷりんしゃうの
はれをうひらぎやうあるくり。過生と菩提樹の
もとにおろんぐぷりうとをとしたなり。国よとさ。孫ちんさく
しかぎやうあるあり。浄飯王と父母
しゃや母人と母ときぎめまんそ。ぷりきせん
下うるをへ孫ふとはは孫ひ屋ぐくは懐姫の
心ぞそ。そまりまひぐきまひ。ぐきまてはは懐姫のろん。ちあく
ぐきぐくぎひさうあくれ孫ひりぐ。ぐきてうあ

を乾坤となうあくれ。ぐきうりのまて行ぐこなれぐ。
そひ聖に姫くく海あうりのハへはゆうとるぐ
ちなう者を智恵とぬう。ぐんなうりのもんゆさ
うにあうぷうまんの者ぐくぎやう礼あの心とあを
しぞうぐぎや海げうあうまで行ぐこなう
ぷやの者ハぎやうぐとはぎとうるのぷやうは
ぐくれきめうのぎとはさうとは懐姫の間あうう
孫ふ中ぷうぎへはくをべうぐぷまてたんぎやう
姫行ひ海のぎひさうぐぎとうくるのべぐぐ。
さう種に年号うりてぷさのへさぐ。所月八日昏中
あうれ川ぎうりくれぷちゆくせんぐんのはまてぷ
ぎうさうるまれ孫ふ加大地六しゆまんぐうう
て京ぎうりぬなうう会祭とのべてはあるう四天ぎう

しと事て詳なう語ふ。四まん弟をうつ入ぬ乃
えうくやきたりぞんぐ面りのまに。ぢん寺西ぜん七
除百寫。白こうまゆりまつ
乃ぢんきやうとあらうきを出ぬ。ほむつやう
基数二万余人ぐれく。浄飯大王とおうこたり。
祇園ぐくハこうがくとなんと法あ語ふ。
面まれう祇しこのまうこうこ
てぐひらきやうの千百家ぬうらとこをく我一人去
て怪ぬこそび。都のうら百の男女みぐ。ものはてのべ
しこうめうたりぐんぢやうなつく屋ぐて。西へ
ひうひくぐ七是なの西こ語へハぐ見のトうう。七りの
蓮花ひくこそて去ぬれなのしとうあもうぞ明
十方と照しぬ。ぐたのはるぬ見くく天とこ。

右乃ひとうくく池とこう。四くの巻とぞこなん
語ふ。三界くうの加こうあんそくでんぎやうこんげ。
ゆいがどくそんとこうぐ八天ものぢ。たく我独ら
たつこしとの語ふぐんだうあんぐの二つもう巻。
白こう四巻くく水と濁と二つと出ぬ。ぐくくせ
しめ語ふ。ぐくくなのつくぐ乃ぐとぐ乃ぐくくせ
こそやりぐ乃ぐ乃ぐ乃

きうりうのうん移つてをいとひ移つてやう御く
をくりむうくぱ年三歳とりはつてしあさなひ
人るさもがとなくくみく移つぷのたまは移して
名慶郎夫人まうく移つぷたまはれは歳人なり
移つ本まうれ移ぢ七歳よ移つぢちあくまう。
あづめまうんうそ思ひるうぷうくなんうげう
けいうんかくぷいねうせく移れひくぷうくうまの
日ハ花をあひせうしぷんくうる姫の秋八月廿
五りぢて移とたつて移ぷかつて廿年七歳しぷ
四月九ぢそぐめのまをくのてうぢぢはうをは
移んを移ぐめん名。中をくひく寿まぐとんど
つを出うりてぷ出ぢくひて寿うぷやうまを移を
移くくりはんぢぢたるりんあがひんとあく

一場の色ろうぶ。しうるま今よりてうまてだん
やれのぐ拍ようみそうろうぶ。ろうぶよりてうまれまして。二人の親は
あうそうぶいそんや祝ハ文。百六れく。國の神として。
又浄飯王ハまうまれませた母と云人のなどうおうせ
さうんや天なくしてハ為やうびたなくしてくさ
芽の春あひだ。母なくしていはれべうしびとおぼ
めり。為ひりくのくぶやう為上人よりとせ弟人せ。
おくしやり人一人ものぶたみ源となるづ打ぐのけう
うんこれ世界よりうくぞもくる新りぐ物に
いうるまて二人の釈ハひぞうぶ物としてまうに母し
り人まりくひりやとの弟へぐけうえを撥り
あうれよ為りめりなぐうくなうことれうくめ
てり弟ひうりうぶるうやたうみれ世母ゆおな

りんうく長兄の姫まやぶ人として釈りがためうハ
ぶのひ前ようてもうくやもせ弟ひりがたみをうくいを
さまりうてゼ日しやりひりみれうくれいたうす
おびりうぶりあげまうう今七歳よなうもせ弟ひ世。
太子一天四界れをまてうくう弟弟へたびう
を弟くくくう為りめりあう弟げいたうれう
里うりうぶまりうんうれ兄しやぢやうまたやうまぢや
為りめりれをうさうをうびりせ一天りをりとりんん
ぶうりまりとのう四ひりうこうそ出りなれげみく
たううりやりうぶ兄やうぶひぢやうれまりひな。
長文まりばうりのごりくりあうくぶ世にうんくうくぶ
まりるおりうぶ為い水れよりのあハ風にまうぐうく
うしゆくたまりねハこの国れ島りのごうりがうりや

者也ゐ也ごとくまうまのつたうへでなごうく
水のごとしゆくすゑよ仏ごとし一切めつきん
の位にいたりてそむぎやうつんめつまを
さとり衆ぜんくのあんをさとりぶつこのむぎやう
とをさとりされど未だ用ゐをとむるとらこぶん
そ花のりてまて日をとるとうさんの月ひとう
ようあごに用のまへすて衆とあるさんやをとう
れ法のくうんのをまあるぶやきるの法えれらの業報
也ゐまやうまうでんのきついと愛まがうしのこと
く。老如不定のなしひぶすはおなじうせんぶ千
姫万業とハいのまを迷ぶとしぶ世にくるまう者
そしハ一人もなし業報まつに今れ世だるまのや
ぶう也。後生ぶ法ゐの法のすきうあまをいどの法。

きせんとをとうつびぶこまうのてもあまやぶん。
王の愛を出くあひ人をあくぶて独り
ようせんの道ふをひくひ法ひあぶうあ苦をう
うあまりまひんぶあ。武うあや。衆常の風ふう
なうぞや。花のあをさをひぶむやうれ愛くひ月の
うそかひをうくひんぶまうが死しあん其後をぶれ
やれ人う毎れ後生をとをうひまうべき。法れ百
云れくの国をとうてもあつせん仏のたにつく毎の
がごいをなづぶ。そぶ
毎く。道心のんざ
王ハ法事をメあも
相人とめて位をを
まんぶうを相まう

と仰せられければ百人のさうにんたち、あさん書
をひらくこと各々けうはつのうぶうめでうくまうこと殺
ぶつ、とうとうなひあり。其中よりあいこうこと
さうにんびうぶつくこと、たぐこまりてぞうくやまの
うかことなくぞさめくこと嫁となりぐうろうたまう
出陣しぞうこと拒ぐろうあせのうしさい
あつこう。其中あ一人嫁となりびうにんと仰せけまで。
ないこうアうろうはさうにんあたまあ相まうまうびと
以ぞたぐこなくびぞ仏法のさうあてまうまれ大あ
十カあてぞ宮を出さあ也ひてだんこくやうんの業
あてぞ出家あつてぞんこくやうこと仰ひてぞ
年三十こゃうなんあ阿ぞうあ食夫の夫初
仰ひてぞ勇の釈迦とあこうまを仰ひてぞうまんを

とさぞ元生をさいどこぞ仰ひあさなりぐこう
らうくこうてこうくぞ其阿仏乃は祝法うこあ
あうびぐぞ仏法ぞ乃ぞとちやうんぞこうん事
の出こうぞまび嫁こうれぐこうてあこう仏とやうれど。
大まこうこうあてぞのいこうぐやうぞまこくれうう
おあまぞ梅こうん有へこうてぞこうこうげこうるこうんなまれ
如あぞ。まこうぞこうあ二百年星をこう仏てぞ女
せうんと云山こうう仏人こうび尊こくぞの像飯こうの
仏前あての仏こうぞ仏こうこうこうこうこうまこう
まこうこうこうぞこう仏相まてまこうまこうぞ乗こ
こうこうこうこうぐんこうこう赤三世乃こうをあこうこう
こうこうてぞまこうこうまこうこれ仏こう業なこうこの仏ひ
てぞこうこうぞこうこう仏

其時おいとこうがやあるとなりそてばりんゆるされ
ろう。梅大王はまことにかしこいかたとうさ孫。
いうぶてたくみの巧心をなくさめんとせんてなりぐ
ぞうせんぐしてやしきれろう八四方は宮殿と清
らく飾てぞいりんなるせやうりたくみれ清ん
なくさこそぞまるまやくりんとやしされる秋だ。
大きに牧場ひろく。四面は四季の有様とぞ清ら
せらく扶乃れ柴乃まとき表れけいさとあらうあの
方まの裏の風情西乃まとれ秋れあうさ海わまの表
乃ていとぞ清らくせりつぐて紅葉ろうさたまの
巧ゆきとそたくめやうされるぞるたくさ東れ
りての表れ乃ろくそ紙はりんせんぞ百鶯だん
せうあい移うせらく扶清ひてり表なるぞよつまの

行くさまは、燒野に初うり白髮は雪うちこうさごとれ。
雲めうちうそれ木を藤まる。百さへ流れ嘗ぞうぐん
せいじんの柳。南枝の梅枝れ掘。あくまよ白みたぐひ
なりの。海うの花金うのくさをまきさう花の美せのろよ
あ。あつう月げさんらうなをあくべうぞ。ぞうるよ
むをぶ落れ。松よをくう露れのみをあくくん
せうぞよ人けらくのくれぞを。ぞくて流らうう。
中くこうぞをようれど。たみひあうを海を流く
くとぞんんけう前よ。年八旬よあまう老れ
れをれたのくあをうまはぐなをぐをれ
をうて春を弾なう。たみ月下をあくいあ
あのそれをせんぐなう老人言てやう。紙はこを
らうくとあう義ぞあをれまうを登まん二人れ紀

あうーつうを七珠万宝あうをみうくく夫上紙の
しをまれひ業義あをうさはあしがうをりあり
をくく年をよ八旬あうり髮まはゆををい
うぐをうはよは四海の浪をくこうくまう
く言紀あ付てくあまうせびかくぐうにぞの
ぞ用よ和の名を見わうび百をう力よ海をひあよ
くくくくく身をぐうくをうくりあまを。
さぞんとのぐむをくん人あうを義。接をれば源
くを上な升くぞつをうをうくれぐくさまば
うく業をくうりと思ふ仰うむくはくよ人へ
今はをうてくんよをくくをあや老て二
をび思ひなる。一生れつくむをくくんこうよつり。
ならくあてをとうくを四せをれうを義

やもむかしより浮世に生れてぞ[illegible]
[illegible]して。業とさしたるものさよ。[illegible]やうもやう風
[illegible]も。百官たんせうよいねうせて。[illegible]ばかりく乃業に
[illegible]ゆく。[illegible]くあらハ。花れうぞ
せわとろこうぞうくれてこうなんでぞ。[illegible]うんの
雪洗いてこそ。せいこうひそうひさりあぶ。[illegible]ぶく
おもしろこそ。[illegible]ぶ。[illegible]ぶ。[illegible]
[illegible]花とさうめ。[illegible]
[illegible]なりしたがめ。[illegible]花れりとまて日とくしに
[illegible]さまをなのしぶそて。[illegible]ぞんぞ。[illegible]
[illegible]。[illegible]南れりてよ。[illegible]幸なりつく。[illegible]
とれらんとれで。[illegible]の花れ[illegible]をさしやうぐ。
[illegible]れ白ねよみくれ[illegible]

[illegible]。[illegible]乃乃[illegible]。[illegible]
ぞあるくもの[illegible]をまもりの[illegible]の[illegible]
こぐうさこの[illegible]れ忘れ[illegible]。
[illegible]白ふあやめ[illegible]たりに白の[illegible]。[illegible]
蓮の花。[illegible]
くれ。梅ちとと[illegible]。
[illegible]のさうこぐ[illegible]
ひと[illegible]。道のかうあ。病[illegible]と
おぼ[illegible]人一人[illegible]
いうぬりのそれせんぐなる。病人[illegible]。[illegible]
[illegible]きのひ[illegible]
病とこ[illegible]人同れ病苦こそ[illegible]
[illegible]れ[illegible]

[illegible]れなるうんりつく考ゆるとえらびて
きせん男女とうんぜびて間られかくのごく或ハ
せんこうちようんれゆゆおうひはんじきぬぜかか
ゆゆ或ハひ事そそうれゆゆ或ハうまのつうひとぬぬ
後へ通皆かりびうれのんえんせ汁不同なと
まうつくものく百一病こ合とれて四百四病あり
一れなまひこうもまこぜ人非やと仕事なりかき
ちこと多れとうへかとうんざーえなまひいうれ者
れ中のちくくややまひはまれうちのうんあうれ
ふうこひこあまこさんぱいうひいんやたちんくとあ
うらんちうのこあぬくらべえれ道飛切れさうく
なうとれうらこやうかうとうけで後生れさうと
あう人こうれ地水火風とうくうまれむとなれ

ちんさいなうこうんじめくふやをうこをあうこは
ひこさなくこうやうぐひもをうまこむうひみぐくあと
あうぶうう仕まうひをあうう猫つひ　ままうくうの
ちぐうんあうんのうくうまなせをなうひあうこあれ
うくうくうくのいこんてんのうこうをあれまうし
あうんれこうかこあうれ酒にみ物くじようれみぐく
書み養属うひとしぐぐあうこ地れれうう
こをみうとこうあうのあうまし世界方実くうれん
ちううこいれこうこのあのかくくぐくこうせんこ
部こうこあ下四大仕人うあめことかくくぐ病若
とうくうまかくれぐこ病とうけてハ水ひとこき
くうのなくとゆけまぐうみ益地牙一れ若無
てまうませぐこんうをりうくを地を病ようあう人活

ひなんを恢ゝ。たゞ四ほうに
と。なりめくらしたる所のくハせんぶのハねとたゞめ
して。まつ文へぞ還ぬなりけゝ。さて西わりてへ
明暮なりく。れの海ぜいとをのんをれぞ雪ゆき
髭の女郎花。たゞ。ゝ。ゝ。ゝ

の花つらさとぞ
つもりつる今日は彩章ハ
つとぞよこうまことのりんの
つとりゑ慈悲の心なりこゝぞ
いよく。道心ゆうくぞ
のりてみそなわす義とは
てあらはりゝ
ま白ぬまそ若の
白菊ゝ
らりそそくそ
ゝ若人とりびゆき
うゝ〻ぎ神こゝ
川雪にうもて

涙の色は霜のうへ毛をうつしたるもあり
あり世世よりもむとて幽こと氷よりもうすく紙のうの
うをうつしかさもなの紅梅情まで行くゆくん
けまだうすくこ深の衣をかさねてうの海門浮世の中を
なんじたるは山寺よりあり寄りうつたるみこと
ゆくんじて浮下をもつくたりもの修善を操
世といふ世善をくんぢる祈りまつてこと
たるみうきまての結ぶく花紙をんじ善をく
りんぢうとさいうの事は修善てしやうつ
く世ろをくんぢうよりうねしやうハきやんを
えうりびたまうてを浮のよまぬまがう結び
ぶとはふとひ浮土を移つよつきやそのゆへハ海とる
三界うぬすくうに来くみさう四方やうハ善

のかうちぼまてハ又別
は義業業の義は行ひたをまつがくのき
うやぬうは義おさぐは花のゆへをまきざる
よはうぶんりうは行ぶうをつまよきあうあ
方をとうて中有に生ぶりとむゆうんなうく
ゆて揺りゆきうまをぐさ山沢より移り野
にかをとうくはく人中天上のけらく美は内に
てまがうはれどパ苦うのくうらまちま
きうるよまいのうのくすやうにいるちく
きちくはをかうろうんよりつくのくうく八
うんハ孫はの苦をう業三界きんはうまへある。
或ハうろがまはかこはをとぐぐ或ハうろんを
ぐへをくく眼ようハぐくそんあをはいうまをを

かくのごとくいらせたまひけるこころのうちの
くるしさをうつしおくるまんぐ
うあるべしとぞうるうしあはれたるくにんにはれき
てなんぞ後よむのしく一生ををぎんぼうこ
ぐこころやうあたづくうさまこころむなし三界の衣鄉
あはりあんらしたかろうかうの一こうのおぼえよりて
なりぐくはこの世苦をうらんあまつさへうあや
はしびはをの苦のくるいを生じ八苦衆を給ひくく
うぐぐびのむぐりんあいこうがゆへよ三界六道
をいとひくこころやうくれりんあつこうもとと傷
とハ一世の苦をすべんの後ましをみりを後ふしこと
はしびぼせどんぐうしびあるを後ふしこと
たくひとへあれ道を祈ひがこひ心をおこう後

りぐむのあくごうめつしぐりんなれ佛とたちまち
よのあらうを後ふしとの後ひけをだこをみきにし
めうれうさきのうあぼひをしへ実のうまるもこちや
りんのかうしとなつこをがぐひうこちを祈ぐりんを
景てぼ源とうしたくいうこをひあひうくく浮世を
ぐうひさうしたうぐうあ清心をうあ後ふあきやう
をなつ。大王後ありうれかたくあれまを後ふを
心あくさ後むぼんうこうぐうあうぐまるを後ふあき
後うまなつ。いぐハせんとありうを後ふ百ぼぐや
う歌こうあをあくこうされくぼ八人れんのうくまるを
作ハうぐされ女あきを式こうあのこうのうあ
ぼ心なくさまを後ふあ後ぼや。祈をいを井たてまり
をて佛ぐんうこうこうれけをだこうこうこうこうび

結びくすもくたるみのきれりぱうなるんを
いんすすまうそまうつべきやなるとけ祇だ。きやう
をのくせんぎあつくぷのとうぐうのうらあぷ百
人乃大だんの中よ。一のくつねそわうこせたまふぐ。
やをたーじんそくあり。祇姫こやは蔵しのたしふまく
てまりまんてれ。三十二さうとうそくたまるぷー
まをうぐんの西ぬあ。まーくいあとものくく
ーさ祇乃れだ。大を祇ひてやうそぷんをあそだ
して。屋人大臣のれくくへつうりきを。ぷれをうれに
いくく。屋ちの西の男臣なんをだきうひこのむるゆ祇
まーぷいうぬげと男うそをうへ。笑ひひろうれ的
をを七牧まをたをさ四十宝ようのくくうんをぷくうた
らん人とむとまえ。ーとれをすありうりぷ大ぷ

きうーめて。其後なーぱぷうも的れ見物ちうへ
そて。屋ちを大臣の西ぬ人は事なうぷ事みてんぐく
れううれ祇寝ーうりぷきをんをトをまりあつまう雲
寝のうーぷきうやうはなぷをあいもぷまもく
というれどをぷとをれ者なうりけうぷ。浄飯
まうれ。金弟。こくりんをれちをくーあなんをうき
金兄ちうまはいをこぷ。提婆こりぬとーん。出来
ぷ。此人を強をそーまぷれをうしぷうーをん
てハぐりぷそうーぐれはてきれ人ぬちあこをんよ
まれの吾まぷうまのぐまうと四十丈まこうーへ
て。六万八千のげぐうたれまのきうをてぐれ公
とうていうりけう。祇婆やーされけうぷはうりのの
的を射ぐをて。屋ん大臣れむーんをんとて

つくりけまでぞせのまことをあまひまてでいとこと
ろ。提婆こころこびてしてこれ々ほかぞんりよおの。
ぞのぞかとなる耐てハなれのことやをたぎんの
根をとるや。祇よ好させしてやされ々れぞやをた居
のいとくぞをたりこびせのまことをたこいなくぞを
をしたりん人をこそぞむとまをこうべけまとのこと
まひけまでぞたりつぎたるみけこうめしぼ
年十六よ如弱ひ々ほぞ。おづは業のは弱りなり
けぞれんこしを名如しぼ弱ふぞ比ハこうもを居
ををぞふ人してこるまこうびをぞたふ人してこる
弱ひこりぞをびきれをこがんてんまてるきこをんん
ぬを学てこるまぞたるれ行ぬ水はこひ弱ひくぞふの的に
うちむこうひこうつひきおだしたりつくこるのち弱ひ

きバセのまことをふ如なくこそこうてぞ百ゆちぞんを
々れてこうせんとこをいとゆ弱つてこうの山り
ふく弱せあてこうちこうりこりかつまりのりかぞこぞやく
こうこぞこり有けまだ屋をこ居れ根者やしの
たしこ女とこしまこうをたちこるたこまりたてまこり
弱ふ二世のちぞこるまあ。さうこびれぞりめこく。
表れなぞこをを業屋をこく根の表れたぞ表表
なこしやをこぞ弱ぞもこまふハぴこるるくやこの
あこさ海をを弱ふてぞ。風の者々れこををを
ぬ居ふつけてを居世のこのむこやをこうんぞ弱ふ

文久三癸亥年新調

小林藏書
江州堅田